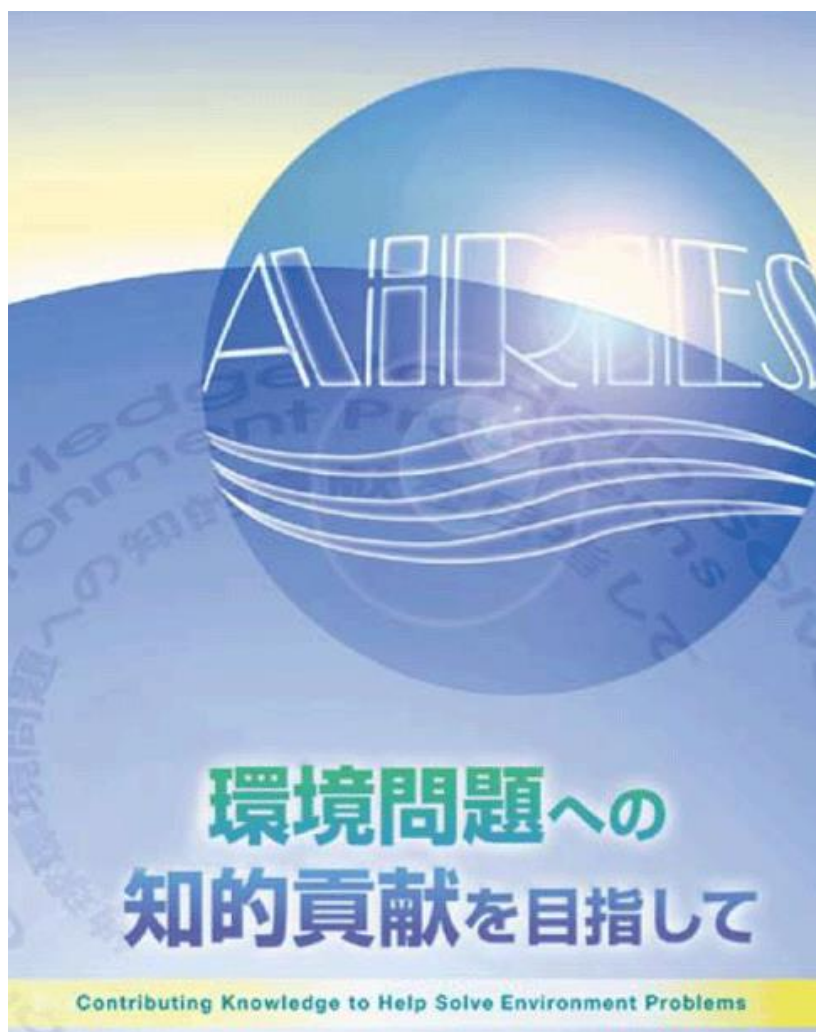


# 国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS  
AIRIES NEWS

2022年3月 第309号



## CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆 (124) 「オフィサーはつらいよ・シッキムの棚田篇」  
原島 省 (元環境研究総合推進費プログラムオフィサー)
- 3 海洋プラスチックごみ学術シンポジウム 開催のご案内
- 4 業務報告

# 協会業務報告

徳田博保(専務理事)

冬から春に向かう中、長かった新型コロナウイルス感染症の第6波もようやくピークアウトしたようです。

冬の北京オリンピックも終わりました。人口が500万人強のノルウェーが金メダル獲得数で1位になるなど、寒い地方の小国の活躍が目立ち、人口が多い先進国が上位を占めた昨夏の東京オリンピックとは様変わりでした。

しかし、ドーピング違反は相変わらず散見され、いたちごっこが続いています。今回はドーピングだけでなく、審判の問題も目立ちました。

スノーボード女子パラレル大回転では、竹内智香選手が転倒の際に相手のドイツ人選手を妨害したと判定され、途中棄権扱いとなりました。その際の審判8人のうち6人はドイツ人だったということが問題視されました。ドイツは今回金メダル数第2位の冬のスポーツ大国ですから、オリンピックレベルで審判を務められる人材も多いということかもしれません。

スノーボードハーフパイプで優勝した平野歩夢選手は、決勝2回目の得点に納得していませんでした。審査方法は、個別の技に点をつけるのではなく、100点満点で総合的に採点する方式で、主観に左右される恐れがあるとの指摘があります。その排除の意味もあるのか、6人の審判がつけた点数の最高点と最低点を除外した4人の点数の平均が得点とされています。

弊協会が関わっている競争的資金等を利用する研究や技術開発の評価にも、スポーツにおける審査方法と同様にさまざまな方法があります。審査員に関しては、当該分野の専門家のみが審査を行う方式のほか、必ずしも当該分野の専門家ではない審査員が大所高所から審査を行う方式もあります。また、

点数のつけ方についても、科学的意義、目標達成可能性等の複数の視点で点数をつけ合計点を採用する方式もあれば、それに総合的観点からの点数を加える場合もあります。さらに、最高点と最低点を排除して平均する場合もあれば、審査員がつけた素点を偏差値化し審査員全体の平均を用いる方式もあります。

どの審査方法が採用されるかで応募者の合否が変わり得るのですが、おそらくは誰もが納得する唯一無二の正解というものはなく、大方の人が納得するような（仕方がないと思うような）審査方法を追求するしかないのではないかと思います。

さて、協会の業務ですが、CO2 排出削減対策の技術開発・実証に関しては、「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」の新規採択審査が3月に行われます。

環境研究総合推進費関係では、3月に企画委員会、追跡評価専門部会が開催されます。

マイクロプラスチック関係では、モニタリング手法の調査、データベース構築等に向けて本年度2回目の国際専門家会合が3月上旬に開かれます。また、3月11日に海洋プラスチックごみ学術シンポジウムがオンラインで開催される予定で、傍聴の登録は3月10日までとなっています（詳細は4頁）。今回は、分布把握と予測、発生源・流出経路・微細化、生物・生態系影響、代替素材・回収技術各分野の第一線の研究者20名による講演及びパネルディスカッションが行われます。

(<http://www.env.go.jp/press/110409.html>)

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしく願いいたします。





## 「オフィサーはつらいよ・シッキムの棚田篇」

原島 省(元環境研究総合推進費プログラムオフィサー)

前話「ダージリンの犬」(第 303 に引き続き、シッキムの州都ガントクからさらに峠を越えて、西ベンガル州北部のカリンポン市に向かいます。このあたり標高 1500m ほどの山地が続いているのですが、緯度的には亜熱帯にあたり、常緑樹が多く 11 月でも秋を感じません。それが、ある一面に来ると、視界がパッと黄金色に変わりました。緩い谷間に棚田が広がっており、10 人あまりの人たちが、稲を刈ったり、わらを束ねて積み上げたりしているのです(写真 1)。あぜ道には、弁当をもってきた女性や、ヤギも(写真 2)。

こういったアジア的風景は、確実に欧米ツーリストの目を引くらしく、車を停めてカメラを向ける人垣ができていました(写真 3)。筆者自身の立ち位置も物理的にはそこにあるのですが、マインド上の立ち位置はなぜか棚田の人たちの側、さらには、1950 年代の秩父盆地の田舎側に瞬間移動していたのです。

と申しますのは、筆者は秩父盆地の生まれで、生家は秩父市内の東町というところにありましたが、私の祖母(父の母親)の出自は秩父郡横瀬村、私の大叔母(祖母の妹さん)は同村内の兼業農家に嫁ぎ、その字(あざ)の名がそのものずばり「苧米(かろごめ)」。

そこからそう遠くない寺坂というところには棚田も広がっていました。一方、母方の祖父の出自は、横瀬川をもうすこし遡ったところ、かつての芦ヶ久保村です(横瀬村と統合されて、現在は秩父郡横瀬町芦ヶ久保)。

ただし、筆者自身は小学 2 年の 1957 年に父の転勤で秩父を転出したため、現在は墓参り以外には秩父とのつながりは希薄なものとなっています。その後の 60 年余りの間に、旧市街のたたずまいにはエイジングが進み、さらに進行中ですが、大きな変貌というにはあたらないかもしれません。



写真1:シッキム山中の棚田で稲刈り作業する人たち



写真2:ヤギも参加している



写真3:写真を撮る欧米観光客たち

大きな変貌は、西武線が西武秩父線として秩父まで延伸してきたことが大きいと思われます。かつては、秩父から旧正丸峠を越えて飯能に至る峠道をバスが越えておりました。私の臉に残る光景は、秩父線の秩父駅を出発したバスが狭い道での対向車をかわしながらお花畑駅際の踏切にさしかかると、切符にチョキチョキ鉄をいれていた車掌のおねえさんがヒラリと降りて線路に出て安全確認を行い、またヒラリと車上に戻る姿なのです。

もっとも、このような感傷は、くねくねの山道でバス酔いするディメリットに比べれば小さいもの。僭越ながら、かすかに憶えている秩父言葉をつづつて西武線の開通を評価するとすれば、以下のように概ね問題ないかと思えます。

「わけししが西武線乗ってんべえつうんで、おらあものってみたが、まさか早く着いて、まえみて一に熊谷で国鉄に乗りけて上野に出るのが、はあーおっくうだ」。(標準語訳：若い人達が西武線にのってみようというので、私ものってみたが、存外に早く着いて、以前のように熊谷廻りで上野に出るのがもう面倒に思えてきた)。

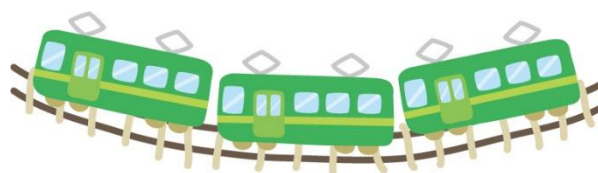
ところで、私自身は、はじめてこの西武電車に乗った時、違和感といつては大げさですが、なにか違うなという感がありました。しばらくはその原因に思い当たらなかつたのですが、ようやく以下に気づいたのです。電車が秩父市内に近づくにつれ、芦ヶ久保、横瀬、西武秩父と車内アナウンスが入るのですが、そのイントネーションが違うのです。本来の秩父ネイティブ発音を音階で示すとすれば、「あしがくぼ」は「ドミミミミ」、「よこぜ」は「ドミミ」なのですが、西武線アナウンスではこれらが「ドファファミド」と「ファミド」になっているのです。

こういうことがもし京都で起こったとしたら、いや、彼の地はしばしばドラマなどに出るのでしばしば起こりうるのですが、どういう事態が生じるかというと、「きのう〇〇△子がもっともらしゅう演技してはったけどな、あんなんちつとも京都弁やあらへん」。いかな今を時めく人気女優であろうとも、京女の辛口コメントにあえなく撃沈してしまうのです。また彼の地では小学生も含めてすでに立派な京女なので、外来者は心しておく必要があります。

それでは、西武秩父線がなぜネイティブの抑揚からずれてしまったかにつき「たぶんこうだったのじゃないか劇場」的な推論をたててみましょう。すなわち、この路線の車内アナウンスが作成された際、社内的にしろアウトソーシングにしろ、西武に採用されたアナウンス嬢が池袋近辺を活動の中心としていたため、池袋：「ドファファミド」、目白：「ファミド」のアクセントが身に付いていたせいではないか？そのため、芦ヶ久保：「ドファファミド」、横瀬：「ファミド」になってしまったのでしょう。

そして、筆者もこれ以上「まちげえだんべえ」などとは申しません。渋沢栄一が使っていたという「深谷弁」などととも、小異は気にせず、骨太の西関東弁としてサーバイブしてほしい。先述の「寺坂棚田」は現在、棚田の価値に共感した人達の「オーナー制度」で維持されていると聞いておりますが、秩父ネイティブでない人達も棚田をきっかけに初冬の秩父連山を思い浮かべ、言葉を交わしてほしいのです。

「はあー山は雪だんべえ」。



## 海洋プラスチックごみ学術シンポジウム 開催のご案内

環境省では、海洋プラスチックごみに関する科学的知見の現状を、学术界を中心に広く発信し共有することで、我が国における研究の裾野を広げるとともに、更なる研究の推進を図ることを目的とし、表題のシンポジウムをオンラインで開催いたします。

本シンポジウムは、海洋プラスチックごみの「分布把握と予測」、「発生源・流出経路・微細化」、「生物・生態系影響」、「代替素材・回収技術」の4つのセッションで構成しています。

ご興味のある方は、ぜひ参加登録をお願いいたします。

日時：令和4年3月11日(金) 9:00～17:30(予定)

場所：オンライン開催

主催：環境省 参加費：無料 定員：500名（先着順、定員に達し次第締め切り）

### 【参加事前登録】

◆ 登録専用フォーム：[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_4zufFgzmS6aST8YotEkn4g](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_4zufFgzmS6aST8YotEkn4g)

◆ 登録詳細：<http://www.env.go.jp/press/110409.html>（環境省 報道発表資料）

◆ 参加登録：令和4年3月10日(木) 17:00まで

※ シンポジウム開催日前にご登録いただいたアドレスに参加手順等を送付いたします。

### 【事前登録についてお問合せ先】

シンポジウム事務局：一般社団法人国際環境研究協会 小池

Email: [marine.m-plastics@airies.or.jp](mailto:marine.m-plastics@airies.or.jp) / Tel : 03-5812-2105

<プログラム(予定)> ※プログラム内容や開催時間は変更となる可能性があります。

- ① 9:00-9:10 オープニングセッション
- ② 9:10-10:30 セッション A: 分布把握と予測
  - ・ セッションモデレーター：磯辺 篤彦(九州大学応用力学研究所 教授)
  - ・ その他、公募で選ばれた研究者による講演
- ③ 10:40-12:00 セッション B: 発生源・流出経路・微細化
  - ・ セッションモデレーター：二瓶 泰雄(東京理科大学 教授)
  - ・ その他、公募で選ばれた研究者による講演
- ④ 13:30-14:50 セッション C: 生物・生態系影響
  - ・ セッションモデレーター：山本 裕史(国立環境研究所 副領域長)
  - ・ その他、公募で選ばれた研究者による講演
- ⑤ 14:55-16:15 セッション D: 代替素材・回収技術
  - ・ セッションモデレーター：吉岡 敏明(東北大学大学院 教授)
  - ・ その他、公募で選ばれた研究者による講演
- ⑥ 16:25-17:30 クロージングセッション
  - ・ パネルディスカッション: 学際的な議論に向けて  
モデレータ：白山 義久(京都大学 名誉教授)  
パネリスト：各セッションモデレーター







# 業務日誌

(2022年2月)

- 2/1(火): CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
2(水): 推進費制度 新規採択ヒアリング(S-II)に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
3(木): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
3(木),4(金): 推進費制度 新規採択ヒアリング(資源循環)に参加(Web 会議)  
4(金): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業キックオフ会合に参加(Web 会議)  
7(月): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
7(月),8(火): 推進費制度 新規採択ヒアリング(安全確保)に参加(Web 会議)  
8(火): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
9(水): CO2 対策事業 検討会及びキックオフ会合に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
10(木): CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
CO2 対策事業キックオフ会合に参加(Web 会議)  
11(金): CO2 対策事業 一次公募課題審査打合せ(Web 会議)  
14(月): CO2 対策事業 一次公募課題審査打合せ(協会)  
15(火): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業キックオフ会合に参加(Web 会議)  
16(水): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業キックオフ会合に参加(Web 会議)  
17(木): CO2 対策事業 一次公募課題審査打合せ(環境省)  
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)  
18(金): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
21(月): 推進費制度 第3回推進委員会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業キックオフ会合に参加(Web 会議)  
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)  
24(木): CO2 対策事業 検討会に参加(守谷)  
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
CO2 対策事業キックオフ会合に参加(Web 会議)  
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)  
25(金): CO2 対策事業 検討会・リモート実証検分に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)  
28(月): CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)  
CO2 対策事業 キックオフ会合に参加(Web 会議)  
マイクロプラ事業 事前説明(Web 会議)  
\* 推進費制度: 環境研究総合推進費制度運営・検討業務  
CO2 対策事業: CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業管理・検討等事業  
マイクロプラ事業: マイクロプラスチックに関するデータ共有システムの要件定義書案等作成、技術的課題に係る検討、国際連携に係る検討等業務

AIRIES NEWS  
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL: 03-5812-2105

FAX: 03-5812-2106

E-mail: [airies@airies.or.jp](mailto:airies@airies.or.jp)

Homepage: <http://www.airies.or.jp>

